

追悼

ーS. フレルバートル大使を偲んでー

公益社団法人日本モンゴル協会

理事長 窪田 新一

去る 2023 年 9 月 19 日、ソドブジャムツ・フレルバートル元モンゴル国特命全権大使が逝去された。享年 72 歳。敢えてそう呼ばせていただくが、大使は我々日本人にとっても、かけがえのない、大切な友人であった。大使の後継者は、日本モンゴル両国に数多く存在すると思われるが、それでも、まだまだ日本とモンゴルの両国関係に多くの貢献をなされたはずと思料され、心からその逝去を悔やむものである。

大使は、1951 年 10 月 17 日にウランバートルで生まれ、1969 年にバヤンホンゴル県の 10 年学校を卒業、1971 年に国立師範大学 2 年を修了したところで、モスクワ国際関係大学に進み、1976 年卒業、さらにソ連外務省付属外交アカデミーで 1989 年から 91 年まで 2 年国際関係専攻で学び修了している。

モンゴル国外務省には、1976 年に入省し、その外務省としてのシステムがモンゴルで初めて構築される時期に重要な役割を担って、47 年間勤務された。1981 年から 87 年は、日本で三等書記官として、1987 年から 92 年までは外務省アジア課次長として、1992 年から 96 年までは外務省アジア・アフリカ局局長として勤務し、1997 年から 2001 年までは日本国駐箚モンゴル国特命全権大使として、二度目の日本滞在勤務であった。その後、外務省政策顧問、アジア局局長を歴任され、2008 年から 12 年までは朝鮮民主主義人民共和国駐箚モンゴル国特命全権大使となり、続いて 2012 年から 2017 年までは再び日本国駐箚モンゴル国特命全権大使となり、それぞれ多大な貢献をなした。

それらの功績に対し、モンゴル国政府は「労働功績賞」、「北極星賞」、「経済功績者賞」などの勲章によっても評価され、日本国からも「旭日重光章」によってその功績が高く評価されているところは、両国の多くの人の知るところである。その訃報に合わせて、モンゴル国外務省はバトツェツェグ外務大臣名で追悼文をホーム・ページに掲げ、アジアにその外交政策の視点を振り向ける努力を重ねた 47 年間を特別にたたえている。

大使を追悼する中で、一つだけ民間外交を担ってきた、公益社団法人日本モンゴル協会の仕事を通じてのエピソードをお伝えしておきたい。大使は、我々民間のグループがモンゴルとの交流、協力を進めることにも腐心され、多くの催しに協力して下さった。今も継続しているのは、クリルタイ（温泉交流）、元使供養、忘年会（大使館での交流）の3つの催しで、いずれも様々な困難があるにもかかわらず、その意義を説かれて実施が可能になった。大使が開いた交流の道は、あとから通る日本人、モンゴル人、またほかの北東アジアの人々の多く通る道となり、また、新しくできる道に続く基礎工事になっていると確信するものである。民間交流の立場からも忘れることのできない大使と認識する次第である。

あらためて、この度フレルバータル大使の訃報に接し、心から哀悼の意を表すものである。

合掌

S. フレルバータル大使を偲んで

INAF 所長 李 鋼哲

INAF 最高顧問であるフレルバータル元大使が病気で亡くなったという訃報は、上記の窪田新一先生がモンゴルから LINE で伝えてくれました。INAF としては最高顧問を失うという大きな悲しみに接することになってしまいました。

2020 年秋に INAF 設立に際して、フレルバータル元大使（当時はモンゴル日本友好協会理事長）を顧問として招聘したく、連絡しようと思いましたが、モンゴルでの連絡先が途切れて、当時 ERINA のエンクバヤル先生（INAF 理事）に連絡したら、大使のお嬢様が新潟に研修できているので、そのルートを通じて電話番号とメールアドレスをいただき、直接電話して設立趣旨を説明し、顧問として招聘したいという意を伝えたら、快諾してくれました。INAF 設立以来直接お会いしたことがなく、メールでのやり取りでしたが、いつも心強くご応援とご指導してくれたので、感激ばかりです。

私が最初にフレルバータル大使にお会いしたのは、谷口誠先生との出会いと同じで、成蹊大学大学院で国際開発講座を公開で開設され、立教大学経済学研究科の院生として私が受講したのがきっかけでした。それから数年後、私は 1999 年東アジア総合研究所（平川均 INAF 理事長が当時の副所長・名古屋大学教授）でアルバイト仕事をしていました。2000 年 8 月に研究所が台北で「北東アジア国際シンポジウム」を開催する準備のために私が事務局長を担当したが、会議に参加するために台北に行ったフレルバータル大使とモンゴル大使館の公使を私が空港まで行って迎えることになり、そこでいろいろ交流ができたので、親しい関係になりました。

その後私が NIRA で研究員をしていた時に、2004 年秋に初めてモンゴル出張と現地視察に行く時に、大使にご相談したら、大使はモンゴルの外務省に連絡し、外務省が接待と全日程を手配して案内してくれました。モンゴルの新聞社のインタビューも受けました。大変お世話になったことを永遠に忘れられません。

2005 年 3 月には、NIRA でモンゴルに関するコロキアムを私が企画し、フレルバータル大使にお越しいただき、講演してくれました。

その後、私が金沢に来てから、2015 年夏に北陸大学でワンアジア財団の寄付講座を設けたときに、フレルバータル大使をお招きし、立派な講演をしていただき、また石川モンゴル協会の会長はじめ会員たちにも紹介し、素晴らしい交流ができました。

その時、大使からは、モンゴル新大統領は北東アジア対話のためのラウンド・テー

ブルを準備していますので、私に参加するように招聘状を出してくれましたが、大学の事情で残念ながら参加できませんでした。

2016年に私は、東京のモンゴル大使館を訪問し、フレルバータル大使に、豆満江地域国際開発のための大学を設立したいので、ご指導・ご協力をお願いしますと申しましたら、「李さんは東北アジア人であり、李さんがやっていることは何でも協力しますよ」と励ましてくれました。

INAF を設立できたのも、フレルバータル大使を始め、立派な先生たちが心より支えてくれたからにほかなりません。

フレルバータル大使には、ここに謹んでお悔やみ申し上げます。先生は私の心の中にいつまでも残ると同時に、INAF 精神として遺志を継いでいく覚悟であります。安らかに眠りください。(2024. 4. 30)

故・ソドブジャムツ・フレルバートル最高顧問の略歴

(モンゴル語: Содовжамцын Хүрэлбаатар Sodovjamtsyn Khurelbaatar)



学歴

- 1959～1969年 モンゴル人民共和国バヤンホンゴル県にて中等教育修了
- 1969～1971年 モンゴル国立教育大学
- 1971～1976年 モスクワ国際関係大学卒業
- 1989～1991年 外交アカデミー修了

職歴

- 1976～1981年 外務省 アジア局職員
 - 1981～1987年 駐日モンゴル人民共和国大使館 理事官・三等書記官
 - 1987～1989年 外務省 アジア局 二等書記官
 - 1991～1996年 外務省 アジア・アフリカ局長
 - 1997～2001年 駐日モンゴル国特命全権大使
 - 2002～2005年 外務省 政策企画・情報・評価局顧問
 - 2005～2008年 外務省 アジア局長
 - 2008～2011年 駐朝鮮民主主義人民共和国モンゴル国特命全権大使
 - 2012～2017年 駐日モンゴル国特命全権大使（再任）
 - 2017～ モンゴル日本友好協会会長
- 2017年11月3日、両次にわたる駐日大使としての職務を通じた日本・モンゴル間の友好親善や相互理解促進への寄与を顕彰するため、日本政府より旭日重光章が授与された。
- 2023.9.19 歿